

# 令和4年度 主題研究

## 研究主題

### 各教科等におけるICTを活用した授業の創造

～児童の思考力・判断力・表現力の育成を目指して～

#### 1. 主題設定理由

##### (1) 学習指導要領と社会の要請から

急速な情報通信技術の進展やグローバル化など、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しており、このような時代を生きる子どもに必要な資質や能力として、「言語能力」「問題発見及び解決能力等」に、新たに「情報活用能力」が加えられた。これらの資質や能力を育成するために、コンピュータや情報通信ネットワーク等の情報手段を適切に活用した学習活動の充実を図ることが求められている。

学校現場においても、新型コロナウイルス感染症の情勢と重なって教育環境が整備され、児童へタブレットの貸し出しが行われた。教員はICTを活用し、学習内容をわかりやすく指導することが求められている。

#### GIGA スクール構想について（令和元年 文部科学大臣メッセージ 抜粋）

Society 5.0時代に生きる子どもたちにとって、PC 端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムです。今や仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所で ICT の活用が日常のものとなっています。社会を生き抜く力を育み、子ども達の可能性を広げる場所である学校が、時代に取り残され、世界からも遅れたままではられません。

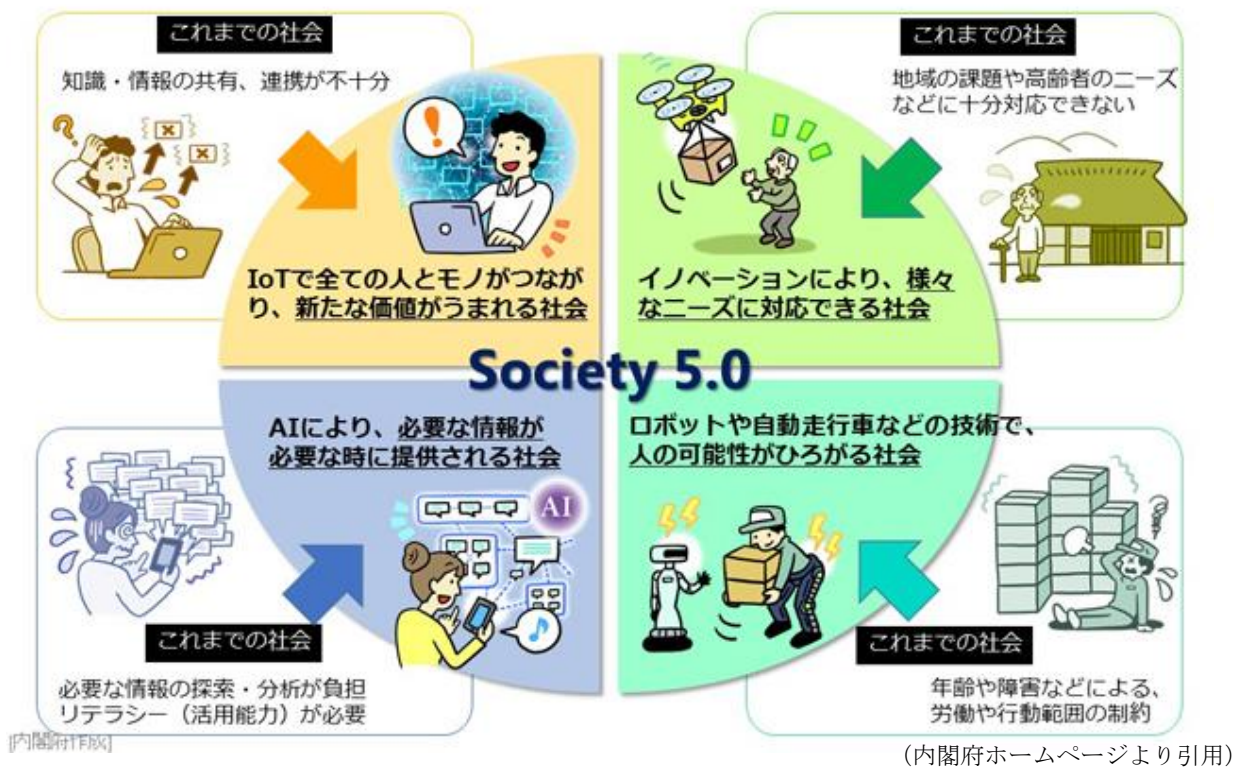
一人一台端末環境は、もはや令和の時代における学校の「スタンダード」であり、特別なことではありません。これまでの我が国の150年に及ぶ教育実践の蓄積の上に、最先端の ICT 教育を取り入れ、これまでの実践と ICT のベストミックスを図っていくことにより、これからの学校教育は劇的に変わります。～中略～

忘れてはならないことは、ICT 環境の整備は手段であり目的ではないということです。子どもたちが変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成していくことが必要です。その際、子ども達が ICT を適切・安全に使いこなせることができるよう、ネットリテラシーなどの情報活用能力を育成していくことも重要です。

#### ※ Society 5.0とは

政府が策定した「第5期科学技術基本計画」のなかで提唱されている新しい社会のあり方のこと。内閣府の定義では、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）」となっている。

引用：内閣府ホームページ Society5.0



これまで（Society4.0）は、人がサイバー空間に存在するデータにインターネットを經由してアクセスし、情報データを入手・分析していた。Society5.0では、人工知能（AI）がデータを解析し、人間にフィードバック（ロボットを通して）する新たな社会の実現を目指している。

## （2）学校教育目標、スクールプランから

本校の学校教育目標は、「徳・知・体の調和のとれた、人間性豊かな実践力のある子どもの育成」となっている。また、本年度のスクールプラン「子どもの学びに関すること」の重点目標が「進んでよく学び、よく聞き、深く考え、表現できる子どもの育成（ICT活用の重視）」となっている。

目まぐるしく社会が変化していく今日、そのことに対応できる力、つまり問題を解決するための必要な手順を論理的に考えていく力を育むことが必要である。本研究は、本校教育目標及びスクールプランの具現化のためにも有効であると考えられる。

## 2. 主題について

「各教科等におけるICTを活用した授業」とは、各教科等でICTを活用した学習活動に取り組み、学びをより確実なものにする授業のことである。「ICT」は「ICT機器」と「ICT教材」に大別される。「ICT機器」とは、コンピュータ、タブレットPC、電子黒板、実物投影機、デジタルカメラ、ビデオカメラ、プロジェクター等を指す。また、「ICT教材」とは、デジタル教科書やウェブ上のコンテンツ、コンピュータでの自作教材、デジタル画像や動画等を指す。これらの「ICT」を授業のねらいを達成するために意図的・計画的に授業で使うことを「ICTを活用する」と定義する。

### 3. 年次研究計画

第1年次 (令和3年度)	教員が研修等を通して ICT の活用方法を理解したり、教材研究を行ったりすることで、ICT を活用した授業実践を行うことができるようにする。
第2年次 (令和4年度)	児童が課題解決に向けて自分の考えをもち、意見交流を通して、自分の考えを深めるために ICT を活用する。
第3年次(仮) (令和5年度)	児童が ICT を効果的に活用し、お互いの意見を交流して考えを深めることができるようにする。

### 4. 研究仮説

各教科等の学習指導において、意図的・計画的に ICT を活用したり、アナログとデジタルの融合を図ったりすれば、児童が課題解決に向けて自分の考えをもち、意見交流を通して、自分の考えを深めることができるであろう。

### 5. 仮説実証のための手立て

#### (1) ICT を活用する意図や効果を明確にする。

「わかる授業」を実現するために、意図的・計画的な授業構成と学習展開が不可欠となる。そこで、単元や一時間の授業の中で、単元の目標や授業の主眼に即して、どの ICT をどのように活用すると、どのような効果が期待できるのかを明確にして、授業を構成していくようにする。

#### (2) アナログとデジタルの有効性を生かして融合させる。

黒板、ノート、ワークシート等、従来活用してきたアナログツールと、ICT のようなデジタルツールを分けて考えるのではなく、それらの特性や有効性を生かし、組み合わせることで効果的に活用する(=融合する)ことが重要だと考える。そのために、両者の特性や有効性を把握して、どのように融合させるとより効果的であるかを吟味する必要がある。併せて、板書については、思考の流れがよく分かる構造的な板書を計画しなければならない。

### 6. 本年度の研究計画

1学期	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 主題研究推進計画案の提案</li><li>・ タブレットなどの ICT を活用した授業を行い、二学期以降の実践に生かせるようにしておく。</li><li>・ 二学期に実践を行う教科、単元の検討</li></ul>
2学期	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 低・中・高で1実践提案</li><li>・ 研究のまとめ</li></ul>
3学期	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研究のまとめ</li><li>・ 成果と課題について、次年度の主題について</li></ul>